

関経連ベトナム・香港使節団

9月11日(日)～17日(土)、森詳介会長を団長とする39名の使節団をベトナム(ハノイ・ホーチミン)および香港に派遣した。ベトナムではチャン・ダイ・クアン国家主席をはじめとする国家指導者・政府要人と懇談したほか、ベトナム政府機関と関西企業との対話会や現地企業の視察等を行った。香港では、香港貿易発展局および香港工業総会とのラウンドテーブルを開催した。



ベトナム訪問

関経連では1996年以降、ベトナムへ継続的に訪問団を派遣するとともに、計画投資省やベトナム商工会議所と協力合意書を締結するなど、ベトナムとの経済交流強化に努めてきた。

2016年4月に、チャン・ダイ・クアン国家主席、グエン・スアン・フック首相をはじめとする新指導部体制が発足したことを受け、ベトナムと関西の経済交流拡大に向けて、3年半ぶりに使節団を派遣した。

■国家指導者・政府要人との懇談



クアン国家主席との懇談

クアン国家主席との懇談では、国家主席が「関経連は日本を代表する経済団体として両国の関係促進に大きな役割を果たしてきた」と評価するとともに、経済交流のさらなる拡

大に向け「企業進出の障壁を取り除き、外国人投資家の権利を保護することを約束する」と述べ、投資環境の改善に積極的な姿勢を示した。また、ベトナム政府機関と関西企業との対話会について、「有意義なメカニズムである」とし、毎年定期的な開催を求めた(対話会の詳細は後述)。

経済政策を担当するヴオン・ディン・フエ副首相からは、経済の持続可能かつ安定的な成長に向け、環境にも配慮した「経済の量から質への転換」の方針のもと、AEC(アセアン経済共同体)、FTA、TPP協定など経済連携の強化を進めているとの話があった。当会が来年度にハノイで実施するすそ野産業の人材を育成する「ものづくり基礎研修」については、「国内の生産強化や日本企業で働く人材の確保の観点で重要」と評価。そのほか、ベトナム人材の日本での受け入れ拡大や訪日研修を終えた帰国後の活用について、協力要請があった。

グエン・バン・チュン計画投資副大臣は、外国投資庁を窓口として関係部局と連携し、進出企業の課題

に迅速に対応すると約束した。

■地方政府要人との懇談

今回の使節団では、ベトナム中央政府のみならず、多くの関西企業が進出している南部のホーチミン市と、ホーチミン市の南東40kmに位置するバリア・ブンタウ省の政府要人も懇談する機会を得た。

ホーチミン市人民委員会のグエン・タン・フォン委員長(ホーチミン市長)との懇談では、外国からの投資環境の整備状況について紹介があり、機械・IT・化学・バイオケミカル・食品加工といった重点分野の振興、すそ野産業の拡充、ハイテク分野における人材育成に対し、関心が示された。



フォン・ホーチミン市長との懇談

バリア・ブンタウ省との懇談では、グエン・フォン・リン共産党書記から、過去の石油依存の成長から脱し、

すそ野産業育成・港湾開発・ロジスティクス・観光など複数の柱を立てて経済成長をはかっていると、これらの分野への日本・関西からの投資に期待するコメントが寄せられた。また、リン党書記との懇談の冒頭には、日本語による同省の紹介ビデオが上映されるなど、日本企業の誘致に熱心な姿勢がうかがえた。

■ベトナム政府機関と関西企業との対話会

関西企業のベトナムにおける投資環境改善および関西が強みを有する環境分野の協力拡大に向けた対話会をベトナム政府とともに開催し、ベトナム側からは約30名、関西側からは現地進出企業からの出席者を含めて約60名が参加した。

対話会では関西企業からベトナム政府に対し、地域によってバラつきがある法令運用の改善や、現地労働者の働き方の柔軟な対応を求めた。ベトナム側からは「今後前向きに改善を検討したい」との回答が得られるなど、有意義な意見交換が行われた。



ベトナム政府機関との対話会

■その他

アジアと関西の橋渡し役として期待される「親関西人材」のネットワークを構築するため、ハノイで関経連アセアン経営研修の修了生との交流会を開催した。ベトナムの修了生のほか、ベトナム政財界などから関係

者計65名が参加し、活発な交流がはかられた。

また、関経連会員企業でバリア・ブンタウ省に進出している共英製鋼および第一稀元素化学工業の現地法人を訪問。工場視察を行うとともに、現地での事業運営上の課題等について意見交換を行った。

■今後の展開

当会では今後、ベトナム政府機関との対話会を毎年開催し、関西企業の事業拡大につなげていく。また、「ものづくり基礎研修」を通じて、ベトナムのものづくり力の強化に貢献するとともに、関西企業の環境技術の理解を深めていただくインダストリアル・ツアーを実施するなど、引き続き、関西とベトナムとの関係強化に取り組んでいく。

香港訪問

香港は、中国ビジネスの玄関口であるとともに、アジアの国際金融・貿易センターとして重要な役割を果たしており、関西の強みである環境分野においてもビジネスチャンスが大いにあると期待されている。

16年ぶりとなる今回の訪問では、環境分野をはじめとする今後の協力関係の強化に向けて、香港貿易発展局および現地の経済団体である香港工業総会とラウンドテーブルを行った。

■ラウンドテーブルの開催

ラウンドテーブルには、ソフィア・チョン香港貿易発展局副総裁およびジミー・クウォック香港工業総会副会長が出席した。

まず香港側から、現在中国で進

められている経済圏構想「一帯一路構想」や香港におけるグリーン建築の現状について紹介があり、その後、日立造船の水処理、バイオガス回収、およびごみ焼却発電に関する技術と、掘場製作所の大気・水質の計測機器を用いた環境スマートシティの取り組みについて、プレゼンテーションを行った。最後に、関西で交流の機会を設けることを使節団から提案し、香港側の賛同を得た。

また、マーガレット・フォン総裁をはじめとする香港貿易発展局幹部との懇談会では、フォン総裁から「関経連と香港貿易発展局が協力合意書を締結して今年で20年を迎えた。今回の訪問を機に、交流を一層活発なものとしたい」との発言があった。これに対し、森会長は「今回実施した環境技術のラウンドテーブルのように、他の分野でも交流を拡大したい」と述べた。



ラウンドテーブルの様子

■今後の展開

関経連では引き続き、香港貿易発展局および香港工業総会との間で環境分野のほかテーマを広げたラウンドテーブルを開催し、香港経済界との交流を強化する。また、毎年秋に香港で開かれる「エコ・エキスポ・アジア」への協力を通じて、会員企業の香港におけるビジネス展開を支援していく。

(国際部 濱田浩一、森田信)